

赤兎馬●服部 崇

赤兎馬のごとく働き週末の未明ひとりの男逝きたり

「京都から息子が彼女を連れてきた」笑みを浮かべて語りし男

少年が唱へし歌の職業の、軍人、水夫、乞食、盗人

汝が妻は電話を通じ「でもきつとそれは何か意味のあることで」

ぐりぐりと宇宙はかき混ぜられてゐる今宵いまだに守宮が来ない

小麦粉と砂糖をこねて庭に置けば蟻が集まり食べつくす午後

こんな日も秋空晴れて 気丈なる妻の話題を我はせざりき

声に出し練習をせり subarachnoid hemorrhage 何度も

週明けの会議の再開オンラインテストをやりながら待つ

後任が任命されてオンライン画面に映る者となりたり

各国の代表たちは弔辞述べ引き続きこは反対と言ふ

由の字に山あり中あり田んぼあり出たとこ勝負のさいころを振る

午前二時アジェンダ最後のアイテムにうつれり時差をかかへた会議

もし選ぶことができたらさらさらの風媒族に生まれたかつた

まぼろしの軍馬の運ぶまぼろしの物資を奪ふ城のまはりの

満月の明るさ慣れてくださいねベランダからの眺めであれば

四階のここから秋の夕焼けの香りがしますいちどならずも

いづこより逃れしものか裸木の枝にインコの雄叫びを聞く

地上では役目を終へたものが焼却場へ運ばれゆけり

教練に倒れし馬の供養塔にんじんひとつ供へてありぬ